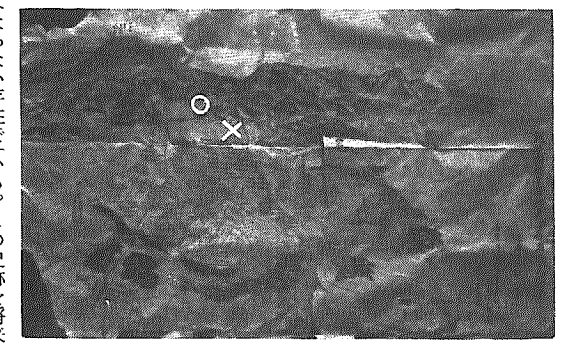
郷土の散歩

②史跡　天神山城跡

県社会教育課　伊藤正一

石瀬と岩室の境にそびえている天神山は、海抜二五〇mの山で、石瀬では城山岩室では要害と呼んでいる。名が示すとおり山頂附近には中世の城跡がほぼ完全に残っている。松と雑木におわれた山中を歩きまわると尾根や山腹を削って人工の平地や崖とした大小数十の曲輪跡や、尾根を深く切り通して敵を防いだ数条の空壕や、曲輪のまわりに築いた土塁や石塁、清水、溜池などの中世の山城の諸施設の跡が認められ、規模は意外に大きく、西浦地方では、弥彦の黒滝城と並んで郡内城跡の双璧と言える。この城跡は山岳の天嶮を利用した山城で、これは非常時に退避してたてこもるための城にあたり、山麓にある里城がつまり館に附属した要塞である。このような退避籠城用の城を当時は要害と呼んでいた。したがって城主、家臣は平素山の城には住んでいたのではなく、麓の部落の中に別に館や屋敷をかまえて、城主以下の武士たちが住んでいたものである。天神山城の場合は城主の館の正確な位置は明確でないが、だいたい東南の麓の城平の東に続く地域、つまり石瀬の下町あたりの陣屋敷から現北陸道の東側の陣屋敷にかけてその南傍の凹地に甑篭形の池があり西方に清水が湧き出ている。（写真1—③）この溜池南側には高い土塁上をなして、その外壁の縁には大きな自然石を積み上げた石垣がくずれ残っている。（写真1—④）擂鉢形の天神山東方は深い谷を隔てて松嵩山がそびえているが、ここにも山城の跡がある。これは戦国時代まで使用された山城の特色が見られ、天神山峰の支峰と考えられる。天神山城がいつ築城されたかについては明らかでない。南北朝時代の越後の大動乱期にあたり、蒲原平野で争われた数回にわたる宮方（南朝）武家方（北朝）の合戦に宮方の武将の中に小国氏の名がみえる。本来刈羽郡の小国郷（現小国町）を本拠として国支配の要塞的存在となっていた源氏の流をくむ小国氏が当時に既にこの地に勢力を延ばしていたとも考えられるが決定的なことは言えない。しかし楠氏一族傑堂能勝の弟子僧謙宗が当時種月寺をここに興していることから言って、ここに宮方とも背景があったことは事実であろう。その後、文明十五年に小国頼重が種月寺に寄進した経典があり同寺北方の山に開基の墓とよぶ室町時代の五輪塔があることも室町時代には小国が在地していたことは確かである。永正年間の越後動乱後下越地方に守護代長尾氏の実権が及ぶにつれて天神山城は、黒滝城と共に下越地方の制圧のための要害的色彩が濃くなり上杉景勝の時、天神山城将として直江山城守の弟が小国氏の後継者として送り込まれ、小国実頼と名乗った。天正六年に始まる御館の乱（上杉謙信死後の家督をめぐる内乱）に際して天神山城は上杉景虎方三条城、栃尾城兵に攻められ苦戦し、上杉景勝方援軍で窮地を脱したこともあった。天正十一年に小国実頼は刈羽郡の小国に移り変って、清水内蔵助が天神山城将（守備司令官）として戦国時代の天神山城は完全に上杉氏の一要塞として戦った。こうして直江山城守の弟が小国氏の後継者として送り込まれ、小国実頼と名乗った。天正六年に始まる御館の乱（上杉謙信死後の家督をめぐる内乱）に際して天神山城は上杉景虎方三条城、栃尾城兵に攻められ苦戦し、上杉景勝方援軍で窮地を脱したこともあった。天正十一年に小国実頼は刈羽郡の小国に移り変って、清水内蔵助が天神山城将（守備司令官）として来た。

1伊藤正一氏作成



石瀬地図（779年前）×陣屋敷○城平　編集子撮影

この史跡は次第に荒れてしまったが、天神山城は忘れてはならない存在である。草木におわれてもなお厳然として残り、この土地に消長した。中世四百年の歴史をまざまざと伝えている。この史跡を将来永く守り伝えていくことを念願してやまない。

僕にもオーバーを

水道給水管　寒い戸外で泣いている

昨年の冬は三百件余りの凍結ハレツがあり、これに伴って御家庭で、夜昼蛇口から水を出している方法がとられたため夜間貯水ができなく、やむなく減圧配水をしたので高所区域では自然断水を生じたりで、お手上げ一歩手前になりました。

注！ビニール管の水はマイナス二度ずつ下ると三時間マイナス五度では五時間マイナス十度では一時間余りで凍ると言われます。

そこで今からお宅の外、又は家の中に出ている管をフイルト、藁類、木箱などで包んで、その上に防水のできるナイロン布とか防水紙などで幾重にも丁寧にまきつけて、外気と水分の入るのを防ぐようにする。特壁の中にとか、つけ根立上り管の土のつけ根なども凍りやすいので忘れないように。

注！このときに防水紙類の合せ目から水が下にとおると効果がうすい。

もし凍って水の出ないときは蛇口をあけたままで保温したものを一時外して湯をたいらにかけることを繰返す。出たら表面の水気を拭ってもとのようにする。

注！お湯が六十度以上のものは管が軟化するのでさけた方がよい。

このような一寸した注意で凍るのを防ぎ、夜昼蛇口から垂水しておく方法はさけて下さい。

重症心身障害者（児）に「おむつ」を贈ろう

ちえおくれの子や、手足の不自由の子どもは、県内に約三万人もおり、このうち二重三重の障害をもつ重症心身障害者（児）が約六百人もおります。この重症心身障害児は、主として脳性小児麻痺のこどもですが、例えば御飯を食べてもかむことができない子どもさんなど障害はいろいろですが、当の子どもさんはともかくその御両親の心中を考えますと胸が痛んでなりません。これらの子どもたちは、神経の麻痺から尿意を感ぜず、失禁するものが大部分です。なにしろ赤ん坊とはちがいますので多量の「おむつ」が必要で家庭ではその調達に苦しんでおります。

この際、できるだけ「おむつ」を集めて、このような家庭や施設に差上げたく、みなさまの温かい善意におすがり申し上げる次第です。

一、御協力品

1、〝おむつ〟の出来上りもので一メートル五〇センチを輪にしたもの。

2、その他

イ、ゆかた

ロ、毛布

ハ、敷布

ニ、タオル・手拭の古くとも清潔のもの。

一、御協力期間

十二月十日まで

一、集荷場所

役場住民課援護係

善意一題

煙雨シトシトと降る去る日、住民課の窓口へ大きいダンボールの中に五千羽の折鶴と封書それに五円硬貨のみ珠数つなぎにして、これを新潟の「はまぐみ学園」（肢体不自由児収容施設）の園児たちに贈って下さい。」と持って来られ、「是非お名前をお聞せ下さい」と言うと「ほんの心持ちだけですからそれだけ……」と急いで帰って行かれました。その後姿を見送って気温は下がっていましたが、その温い愛情に心の中がほのぼのと感じました。五千羽の折鶴これだけでも大変な苦労。更に五円貨の収集にその人の御気持ちがよくわかりました。この温い贈物を早速、同園に送付しましたところ同園の先生方、園児達の悦びは筆に表

交通安全年間スローガン決る

交通安全事業の一端として、村の交通安全年間スローガンを一般の方々と、小中学生を対象として募集いたしましたところ、多数御応募いただき感謝いたします。但し一般の方々からの応募は至って振わず、また審査の結果選衡から洩れたような次第です。従って小中学生から寄せられたもののみについて優秀作を各学校毎に御紹介いたします。このスローガンはあの悲惨な交通事故から守るため、どうかお互いが常にこのスローガンを念頭において、心からの願いであります。事故の発生防止に努力いたしましょう。

岩室村交通安全対策協議会

岩室中学校

◎よく見て運転、よく見て横断　**本間順子**

◎正しく歩こうみんなの道路　**草野チイ子**

◎曲りかど一時停止が身を守る　**佐藤正夫**

◎しっかり守ろう交通マナー　**小林重道**

◎一しゅんの心のゆるみ事故のもと　**岡島康則**

◎自分の安全自分で守れ　**渡辺春雄**

和納小学校

◎道路で遊ぶなとびだすな　**山田昌子**

◎注意から事故をなくして明るい家庭　**佐藤修平**

◎一秒の油断なくなる命　**幸田信一**

間瀬小学校

◎早目にブレーキ曲り角　**本間鉄英**

◎交通事故なくして明日もしあわせ　**浜村貢**

◎生きるよろこび標識守れ　**阿部ひとみ**

みんなの広場

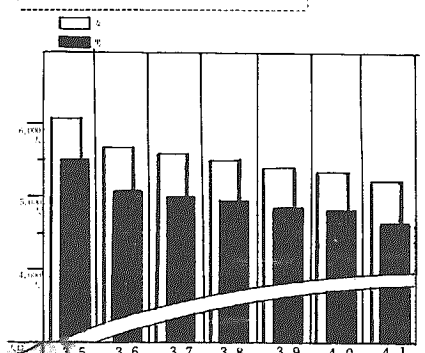
広報「いわむろ」55号を読み感じたこと、急に紙面が変化し読みづらく感じた。その反面内容がおもしろく孫と『郷土の散歩』楽しく読み画だ。『皆んなの広場』で村民の声を取り入れる企画はよい、しかし、最近各町村が行政の周知徹底と政治への関心高揚の目的で「広報」発行し、発行紙の質的向上を図るため、コンクール等を実施している様子だが広報本来の目的よりも体裁に重点がある様に感じられる。役場もそれらを充分注意し「広報」の目的を失うことのないように。

（和納一区）

「いわむろ」に対する御意見非常に貴重なものと思います。最近『広報』発行については重要視されています。マスコミが私達の生活に重大な影響を及ぼしていることは衆知のとおりです。村当局も発行に際し充分な編集員会議（各課室より一名選出）を開き広報本来の目的を失うことのないように記事審査を行ない注意いたしております。広報発行に際し、もっと地域住民の意見聴取の『広聴』も重要と思われます。『みんなの広場』欄を利用して、村民も建設的意見を掲載するようにしていただきたい。住民と村当局がこれらの努力を怠たることによって、最近の報道機関をにぎわす地方自治の不祥事、合併問題紛争も『広聴軽視』の表われと思う。広報、公聴の充実化が政治浄化のビタミン剤といえないまでも地方自治のカンフル注射として広報、公聴の重要性を自覚して努力するつもりでありますので、村民の皆様の御協力をお願いいたします。（「いわむろ」編集担当）

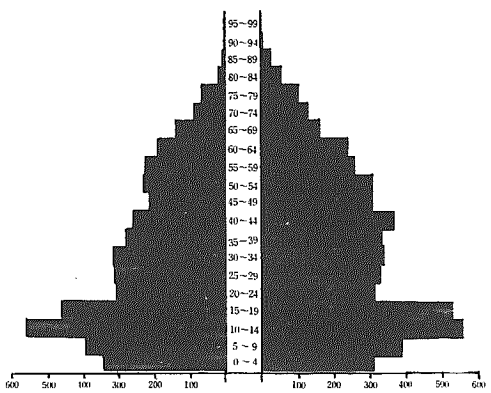
目でみる村勢

■年次別人口推移



（住民登録各年1月1日）

■人口構造図



（年令5才階級調）昭和40年国調より

みんなの健康国保で守ろう

県国保連合会理事長賞　国保思想普及標語

岩室　中渡辺淳